

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 杉山美絵 所属: 茨城県立下妻特別支援学校 記録日: 28年2月12日

キーワード: 「重度重複障害」「OAK」「観察」「実態把握」

【対象児の情報】

○学年: 中学部3年 女子

○障害と困難の内容

◎重度重複障がい

■肢体不自由

■知的障がい

- ・脳炎後遺症による痙性四肢まひ（上肢>下肢）、てんかん、気管切開、頸定（－）、寝返り（－）
- ・腕と足にボツリヌス注射実施。
- ・音の大小にかかわらず、予期しない音が刺激となって発作を起こすことが多い。
- ・食事：ポンプ使用の胃ろう、ケトン食療法実施、経過観察中。
- ・排泄：全介助。
- ・移動：車いす、全介助。

定位反応	◎ 物語のある動画や、本の読み聞かせの活動を好み、注視する様子が見られる。
探索反応	◎ 友だちの様子を目で追ったり、顔を向けたりして関心をもつ様子が見られる。
好悪・快不快	◎ 苦手な感触のものに触れた時など、低い声を出したり不快な表情を見せたりして伝えることがある。また、排尿があると、泣いたり声を出したりして訴えることがある。
要求・拒否	－
有意語	－

◎再現性有り、客観的な説明が可能 ○主観的にはOK、実態の共有には課題 △芽生え、不安定 ーできない ?わからない

【活動目的】

○当初のねらい: 要求や拒否を発声や視線、表情などで伝えることができる。

○実施期間: 2015年5月から2015年12月まで

○実施者: 杉山美絵、中山穰、田淵里香、本澤雄

○実施者と対象児の関係: 個別学習の時間（週2時間）の担当

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況:

- ・二者択一の選択の場面では、本生徒が視線を向けたり、笑顔を見せたりした対象物に対して、選ぶことができた読み取ってきた。また、選択の場面では、本生徒が好む物を提示することがほとんどである。
- ・発声や表情による快・不快の反応が見られることはあるが、要求や拒否という主体的な反応は見られない。

○活動の具体的内容

個別学習の時間

- ・週1～2回（30分程度）実施。

活動場所

- ・刺激になる物（音，光，香り，掲示物）は，できるだけ少なくし，活動場所の環境を整える。使用するタブレット端末，絵本，その他玩具の配置場所を固定する。

観察場面

- ・好きと思われる物や興味がないと思われる物を提示したり，提示の仕方を変えたりした時の反応の違いを観察する。そこから，要求・拒否の反応が見られるかどうかを探る。
- ・①動画，②興味がないと思われる活動，③絵本，④人形を話題とした活動の流れで，毎回同じように取り組む。

活動の流れ	観察の目的
①動画 オフ（刺激なし）→オン（刺激あり）→オフ→オン→…	・「映像は流れているが音声は聞こえない時」 ・「映像が消え音声だけが聞こえてくる時」 ・「映像が一時停止された時」 等，の様子を観察する。
②興味がない活動 無介入→興味がない活動	・「天気予報の動画や宇宙の本を見ている時」 の様子を観察する。
③絵本 無介入→読み聞かせ→ 中断 →読み聞かせ→…	・「絵本の読み聞かせを中断した時」 の様子を観察する。
④人形遊び 遊ぶ→ 中断 → 提示（見る，聞く，触る）して待つ →遊ぶ	・「一度遊んだ後に中断をし，見せて（鈴の音を聞かせて，触れて）待っている時」 の様子を観察する。

観察方法

- ・教師の観察（表情，発声，身体の動き）

+



OAKのモーションヒストリー機能（微細な動きの可視化）

刺激に対する反応の違いを確認する。

かかわる場面での共通の手続き

- ・反応を引き出していくために，興味がありそうな場面で**意図的に中断を入れる**。
- ・拒否等の反応も確認するため，**興味がなさそうな活動も提示する**。
- ・相手に伝わるよりはっきりとした動きにしていくために，**教師の距離を離したり，立ち位置を工夫したりする**。
- ・予測を育てるために，見せて待つ，鈴の音を聞かせて待つ，触れさせて待つ等，**サインが出るのを待ち，サインが出たら活動する**。

○対象生徒の事後の変化

観察場面	OAKによる動きの記録（20秒）		教師の観察+OAKの画像 で確認された生徒の反応
	6月	12月	
①動画 一人で 注視…動き少ない			<ul style="list-style-type: none"> • 動画が始まると笑顔が見られ、画面を注視し、しばらくすると集中しているのが無表情に変わった。途中、動画の場面によっては、笑顔が見られた。
①動画 音声のみ（映像なし） *タブレットが裏返して映像が見えない状態			<ul style="list-style-type: none"> • 普通に動画を見ている状態から映像がなくなると、笑顔から無表情に変わり、目がキョロキョロと動いた。その後、タブレットと教師を交互に見る様子が見られた。
①動画 一時停止 キョロキョロ…目、頭の動き多い →要求につながりそうな動き			<ul style="list-style-type: none"> • 終始無表情で、キョロキョロと目を動かしたり教師を見たりする様子が見られた。
②興味がない活動 視線がそれる…動き少ない →拒否につながりそうな動き			<ul style="list-style-type: none"> • 視線が定まらず、対象物から視線をそらす様子が見られた。選択の場面の教師とのやりとりでは、笑顔が見られることもあったが、興味がない物がずっと提示されている時には、無表情であった。
③絵本の読み聞かせ 口の動き →教師が介在する活動での特徴的な口の動き			<ul style="list-style-type: none"> • 口を大きく開けようとする姿と発声が見られた。 • 他の場面に比べ、身体全体の動きが大きい。
④人形遊び 指の動き→他の場面では見られない指の動き			<ul style="list-style-type: none"> • 口の動きが多く、発声が見られた。 • 指を動かす姿が見られるようになってきた。

※ 12月時の画像は、服の部分が大きく着色されているが、それは、服の柄にOAKカメラが敏感に反応したため、着色量に違いが見られる。

【観察から】

- 動画は、画面の様子を主に意識している。
- 動画は、画面が消えたり停止したりすると、**キョロキョロしたり教師を見たりする等**、**要求につながりそうな動き**がある。
- 興味がない物は、対象物から**視線がそれる**。
- 絵本の読み聞かせや人形遊び等、教師が介在する遊びでは、**口の動きや発声**が特徴的に表れる。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- 「～したい」という時には、対象物と教師を交互に見て、要求が芽生えてきたのではないか。
- 「～したくない」という時には、対象物から視線をそらし、拒否が芽生えてきたのではないか。
- 対象物を見たり、音を聞いたりすることで、次に起こることを予測し、口を動かしているのではないか。

○エビデンス

- 場所や人が変わっても同じように反応が見られた。
- 刺激に対する動きの違いは、その都度同じように表れ、OAKのモーションヒストリーにも運動量の違いとして記録された。

○その他エピソード

家庭での様子

- 興味がないと思われるテレビ番組（天気予報、ニュース）をつけると、テレビ画面を見ない（**視線がそれる**）、泣く、寝てしまうという様子が見られた。
- トトロの動画を見る前に、「さんぽ」を歌うと、笑顔になり**口が動く**。

○実践を通して

客観的評価

重度重複障害児の個別の指導計画には、「～を表情や身体の動きで表現することができる。」と目標を立てることがよくある。また、保護者の願いとしても、「気持ちを分かりやすく伝えてほしい。」というものが多い。実際に、普段の生活の中でも表情や視線、発声、ちょっとした身体の動き等を手がかりに評価しているが、読み取る側の主観になりがちである。しかし、かかわりの多い保護者、教員だからこそ、重度重複障害児の表情や身体の動きの違いを読み取ることができる場合もある。

そこで、これらの表情や身体の動きの違いを、OAKのモーションヒストリーで可視化することにより、場面よっての表情や身体の動きの違いを客観的に評価することができるのではないかと考えた。また、これらの表情や身体の動きの違いを、読み取る側が客観的に基準を設け伸ばしていくことで、重度重複障害児の主体的なかかわりを引き出せるのではないかと考えた。

環境の整備、観察場面の設定

実態把握する際には、何に対して反応しているのか明確にするために、視覚・聴覚・嗅覚等に対して刺激になる物が無い環境を作ることが望ましいと感じた。また、活動にオン（刺激あり）オフ（刺激なし）をつけ、刺激のオンオフ等、刺激の変わり目に見られる反応の違いを観察することが有効であると考えている。

○今後の見通し

体調の変化（発作、入院等）により、身体の動きにも変化が見られるので、引き続き、OAKを使って実態把握をしていく。そして、生徒の主体的なかかわりを引き出すために、かかわる側の聞き取り方・読み取り方を整理し、資料化する。それらを保護者や教員で共有し、生徒の反応に対する適切なフィードバックをすることで、生徒が自分の動きを意識できるようにしていきたい。

